

編集後記（新しい時代）

木村達雄

筑波フォーラム編集委員
数理物質科学研究科数学専攻教授
（きむら たつお／代数学・数論）

『私のプロジェクトと夢』では、筑波のいわゆる新住民や旧住民と言われて分離していた人達を結びつけて、つくば公共圏を形成しようという関根久雄先生のプロジェクトの話は大学の学問が実際に活かされる重要な可能性を感じました。

山口卓男先生の文を読んでわが筑波大学法科大学院がわが国で唯一、社会人が働きながら学べる法曹養成課程で実務教育を重視している様子が良くわかりました。

富重圭一先生の、天然ガスから大気汚染のない合成ガスを作る触媒の触媒時間を1秒から1ミリ秒以下に短縮した話は、これからの地球にとって大事な研究が行われているという印象を受けました。

吉田あつし先生の「医療や教育の現場では金銭的インセンティブだけでなく専門家の倫理や利他主義も無視できない」という言葉でちょっとほっとした気もしました。森嶋厚行先生の「情報技術の急速な発展が必ずしも世の中を幸せにしていないが情報技術を通じて人類の抱える課題に貢献したい」と

いう夢は是非実現してほしいと思いました。

『私の授業』では中込睦子先生の「私達自身が文化の枠組に制約され、その中で生きていることを自覚してほしい」という言葉が印象的でした。津田幸男先生の「学生達の人格形成に役立つよう教育しなければいけない」と言われているのは普通は余り意識されないが確かにそうだと気付かされました。星野貴行先生の「いつも一番前に座り熱心にノートをとっている学生が実は何も理解していなかった」という経験は私にもあり、コピー&ペースト型学生にどうのぞむかという問題は現代の共通の課題だと思いました。

『随筆・随想』では白木賢太郎先生の「お風呂での質問」は親の愛情と何か幼い頃を思い出しました。佐藤勤係長の「未知への挑戦」は、わーこれは大変だろうなと思うとともに、人間にとって経験することの大きさ、重要さも感じさせられました。字数制限の関係で述べられなかった文章もそれぞれに味があり、新しい時代の到来を感じました。